

第1回 都立高校の魅力向上等に係る懇談会専門部会（第三部会）

議事要旨

日 時：令和8年7月6日（月曜日） 午後5時から午後7時まで

会 場：都庁第二本庁舎 16 階 教育委員会室

出席委員：7名

1 開会

2 議事

○ 社会状況を踏まえた対応

（首都である東京においてどのような産業人材を育成すべきか。）

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

- ・ 食料問題や海洋問題などの社会的課題に関心を持ち、探究活動に取り組む子供たちは多い。魅力向上を考える上では、産業そのものではなく「何を解決したいか」という子供たちの関心を起点に捉えることが重要であり、産業の垣根が薄れる中、社会課題を入口とした学際的な学びの視点が必要である。
- ・ 地方の人材不足が進む中、豊富な自然資源や産業を有する地域の自治体等と連携し、生徒がオンラインでの交流や現地での体験を通じて地域課題や産業の実情を学び、地域を越えた探究的な学びを深めていくことでよいのではないか。また、オンラインも活用しながら継続的に交流し、地域をまたいで一つの取組やプロジェクトを創り上げるような学びも有効ではないか。
- ・ 生徒は農業や工業などの産業を従来のイメージで捉えている場合もあることから、多様な人材や産業との関わりを通じて仕事の幅や多様性を学際的に学ぶとともに、分野横断的な視点を身に付け、自ら考えながら唯一解ではなく最適解を見いだし、課題解決を目指せる人材を育成していくことが重要ではないか。
- ・ 現在の産業界のニーズへの対応だけでなく、未知の課題や産業にも対応できる人材の育成が重要であり、専門知識や専門技術の習得と同様に、今はない問いを想像する力や他者と協働する力、分野を横断してつなぐ力など、数値で測れない力の育成も必要ではないか。

○ 学びの内容・産業界との連携

（効率的・効果的に価値を届けられる産業人材育成と、産業界との連携の在り方）

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

- ・ 今後は既存の産業の枠組みにとらわれず、新たな産業も含めて活躍できる人材の育成が重要であり、地域との関わりや実社会での経験を通じて、自分が活躍できる機会やチャンスを見つけ、社会の役に立つ実感を得られるような学びが必要ではないか。また、高校生を実社会の中で挑戦させ、自分たちの取組が実際に社会の役に立つことを実感しながら、その経験を更なる学びや将来につなげていくことが重要ではないか。
- ・ 学校での学びが社会とどのようにつながっているのかを実感しながら、自ら問いを立てる力を育成することが重要であり、企業との連携等を通じて社会とのつながりに触れるとともに、高校生のうちに挑戦や試行錯誤を経験し、思うような結果が得られなかった場合でも、その経験を次の学びやステップにつなげていくことができる環境が必要ではないか。
- ・ AI 等のツールの活用そのものを目的とするのではなく、既存の枠組みにとらわれずに様々な分野を横断して考え、課題解決能力や自ら考える力を基礎として、多様なものを組み合わせながら新たな価値を創出し、プロデュースできる人材を育成することが重要ではないか。また、企業と高校生が共創する仲間として、新たな事業やプロジェクトの企画等に共に取り組むような実践的な学びも有効ではないか。
- ・ 学校の外に出て地域や企業等と関わりながら探究活動を進めることで、生徒の自己肯定感が高まり、自らやりたいことを表明しながら社会参加を進め、大人や仲間と協働して新たな価値を創り出していくことができるような学びがこれから求められるのではないか。
- ・ 効率的・効果的という視点も重要である一方で、新たな価値を創出できる人材を育成するためには、一見非効率に見える試行錯誤や寄り道から新たな発想が生まれることも踏まえ、成果を求め過ぎない探究の余白や時間的な余白を重視することも必要ではないか。

○ 教育環境

（これからの産業人材育成に求められる学校の在り方）

事務局からの説明に対して、委員から次のとおり発言があった。

- ・ 学校施設の更新等を機に、校門や壁に囲まれた学校という考え方を見直し、学校全体を地域や社会に開かれた場としていくとともに、企業や多様な立場の人々が共創に参画できる拠点として高校を位置付け、そのような観点から専門高校のデザインを変えていくとよいのではないか。
- ・ 学校教育を学校の中だけで完結するものではなく、生涯にわたり学び続けるための出発点として捉え、例えば探究活動等を通じて自ら新たな価値や知識を見だし学び続ける力を育成するとともに、学校と社会を行き来しながら学びを深め、地域や

企業も参画して高校教育を共に創り上げていけるような柔軟な仕組みが求められるのではないか。

- ・ 企業や地域、海外の学校、多世代との交流など、多様な主体と連携できる開かれた教育環境を整備するとともに、自分は何者か、何を成し遂げたいのかを考えながら自らの軸を形成していくような教育も必要なのではないか。
- ・ 産業界との連携や開かれた学校づくりを進めることは重要である一方、教育が現在の産業界のニーズに過度に従属することには慎重であるべきであり、専門高校においても芸術や文化、人文社会系も含めた分野横断的な学びを通じて、既存の産業の枠組みを問い直し、新たな価値を生み出す力を育成できる環境が重要ではないか。
- ・ 教員が全てを教えるという考え方ではなく、企業や地域の専門人材が教育に参画し、生徒が実社会の知識や技術に触れられる環境づくりが必要ではないか。また、そのためには企業や団体が教育にどのように関わることができるのかを整理していくことも必要ではないか。

○ 東京都教育委員会教育長

教育長から次のとおり発言があった。

- ・ 専門高校は、設置当時の社会的要請を背景に整備されてきたものであるが、現在の産業構造や社会状況に照らして最適な形となっているかは改めて見つめなおす必要がある。そのような中で、専門高校の在り方を考える入り口編として、本日は活発な議論をいただいたことに感謝する。
- ・ 検討に当たっては、産業界の要請と子供たちがどのような学びを求め、将来社会の中でどのように活躍していくのかという視点を掛け合わせて議論を進めていく必要があると考える。
- ・ また、既存の専門高校という資源を生かしながら、現実的な視点を持って専門高校の在り方を見直していく必要があると考える。そのような点も含め、今後も本部会において活発な御意見、御指導をお願いしたい。
- ・ 産業の要請は変化が速いことから、実学に近い分野については、ある程度社会の動きに連動して対応していく必要がある一方で、中長期的な産業動向も見据えながら議論していく必要があると考える。また、変化への対応と教育の継続性との両立を図りつつ、学習指導要領等の制度的な枠組みも踏まえながら、専門高校の在り方について議論ができればと思っている。

3 事務連絡

○ 次回開催日程について

- ・ 第 2 回は 8 月以降の開催を予定

4 閉会